道徳科の学習評価に関する基本的な考え方について

根深　得英*

特別の教科道徳については通常の教科であれば
(1) 免許（中・高等学校においては，当該教科の免許）を有した専門の教師が，
(2) 教科書を用いて指導し，
(3) 数値等による評価を行うもの
が教科等についての一般的な考え方だが，

(1) については道徳科の免許は作らない，必要としない。

(2) については「特別の教科道徳」の教科書検定について（報告）は7月23日　教科用図書検定調査審議会において○生命の尊厳，社会参画（中学校），自然，伝統と文化，先人の伝記，スポーツ，情報化への対応等現代的な課題などの題材 ○「考える道徳」，「議論する道徳」への転換→「言語活動」「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」（児童生徒が多面的・多角的に考えることができるよう）の2点等を踏まえて教科書が作成されるように各教科書作成会社に指示された。現在，検定作業に入りつつある。

(3) については評価は文章表現にしてもH27年内に評価規準が示されるだろう，という予測であったが残念ながら示されなかった。

H28年8月に「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日が「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」より示された。その内容は評価規準というよりは大きな方向性と具体的に指導要録の参考様式が示された。

中央教育審議会教育課程企画特別部会の「論点整理」（平成27年8月）においては「確かな学力」，「健やかな体」，「豊かな心」をそれぞれ単独で捉えるのではなく，(1)「何を理解しているか，何ができるか（知識・技能）」，(2)「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」，(3)「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）」といった三つの柱で資質・能力を統合的に捉えた評価を目指している。

(1)「何を理解しているか，何ができるか（知識・技能）」

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める。

(2)「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める。

(3)「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）」

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める。

というように，資質・能力の三つの柱に分節することはできないものの，それぞれ下線部分を重視するといった整理が考えられるとの議論がなされた。

そして指導要録の参考様式として

2016年11月30日受付
* 江戸川大学 非常勤講師　教職課程，道徳，特別活動

様式2（指導に関する記録）

中学校生徒指導要録（参考様式）

生徒氏名	学校名	区分＼学年	1	2	3
		学級			
		整理番号			

各教科の学習の記録
1　観点別学習状況

教科	観点＼学年	1	2	3
国語	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
社会	社会的事象への関心・意欲・態度			
	社会的な思考・判断・表現			
	資料活用の技能			
	社会的事象についての知識・理解			
数学	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能			
	数量や図形などについての知識・理解			
理科	自然事象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現			
	観察・実験の技能			
	自然事象についての知識・理解			
音楽	音楽への関心・意欲・態度			
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
美術	美術への関心・意欲・態度			
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
保健体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度			
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			
	運動や健康・安全についての知識・理解			
技術・家庭	生活や技術への関心・意欲・態度			
	生活を工夫し創造する能力			
	生活の技能			
	生活や技術についての知識・理解			
外国語	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力			
	言語や文化についての知識・理解			

教科	観点＼学年	1	2	3

主　観　点

学年＼教科	国語	社会	数学	理科	音楽	美術
1						
2						
3						

学年＼教科	保健体育	技術・家庭	外国語
1			
2			
3			

特別の教科　道徳

学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子
1	
2	
3	

総合的な学習の時間の記録

学年	学習活動	観点	評価
1			
2			
3			

特別活動の記録

内容	観点＼学年	1	2	3
学級活動				
生徒会活動				
学校行事				

が示された。見てわかるように特別の教科道徳については「学習状況及び道徳性に係る成長の様子」を記載することになる。一般的に評価は数値による評価，もしくは文章表現による評価となる。「学習状況及び道徳性に係る成長の様子」は生徒の実態を前向きに表現し記載することになる。道徳についての評価につては「評価すべきではない。」「人間性を評価することは生徒の人権を踏みにじるもの」などの意見もあるようだが，実際授業を行う教員ならば授業後に一人ひとりの生徒に声をかけその授業での生徒の理解の状況の把握や今後の学習への励ましを行う。道徳授業においても授業終了後に生徒がどのくらいわかったのか大いに気になることである。道徳的心情，道徳的判断力，道徳的実践意欲と態度及び道徳的習慣を

・「何を理解しているか，何ができるか（知識・技能）」
・「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
・「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）」

の三つの視点で整頓し直すこととなる。

先ほどの指導要録の書式では一つの学年に一つの枠となっている。もちろん書式は各地教委が定めることができるので，枠を大きくすることや記載する内容を地教委の道徳に関わる課題に沿って重点化することができる。

記載する内容は

学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し，指導に生かすよう努める必要がある。ただし，数値などによる評価は行わないものとする。道徳性の評価の基盤には，教員と児童生徒との人格的な触れ合いによる共感的な理解が存在することが重要である。道徳性の評価は「児童生徒が自らの成長を実感し，更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなる」ような評価を目指すべきである。「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を，観点別評価ではなく個人内評価として丁寧に見取り，記述で表現することが適切である。特に顕著と認められる具体的な状況等について記述による評価の記載となる。

実際の記述にあたっては文字数も限られるので日常の道徳授業や日常のあらゆる教育活動を通じて

(1) 児童生徒の人格そのものに働きかけ，道徳性を養うことを目標とする道徳科の評価としては，育むべき資質・能力を観点別に分節し，学習状況を分析的に捉えることは妥当ではないこと。
(2) このため，道徳科については，「道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己（人間として）の生き方についての考えを深める」という学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を，一定のまとまりの中で，児童生徒が学習の見通しをもって振り返る場面を適切に設定しつつ見取ることが求められること。
(3) 他の児童生徒との比較による評価ではなく，児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め，励ます個人内評価として記述式で

行うこと。

(4) 個々の内容項目ごとではなく，大くくりなまとまりを踏まえた評価とすること。

(5) その際，特に道徳教育の質的転換を図るという今回の道徳の特別教科化の趣旨を踏まえれば，特に，学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか，道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが求められること。

以上の５点に配慮し，更に注意点として児童生徒一人ひとりの道徳に関わる記録と対話とフィードバックが重要となる。記録は分けることはできないがおおむね三つの視点で定期的，必要に応じて残すことが有効である。

実際は

・児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等（紙，電子記憶媒体等）に集積して学習状況を把握すること。

個人別のファイルとして教科に関するもの，道徳に関するもの，特別活動に関するもの，総合的な学習に関するもの，生徒会活動に関するもの，学校行事に関するものなど一人ひとりについて１年生の最初から準備し，学年進行や学級編成時には引継ぎを行い，小学校からの指導要録抄本の記載事項とともに関連するものを引き継ぐことも重要である。

・記録したファイル等を活用して，児童生徒や保護者等に対し，その成長の過程や到達点，今後の課題等を記して伝えること。

どんな時に伝えるか，生徒との二者面談，保護者を含めた三者面談等である。面談回数を重ねることにより指導要録もしくは通知表に記載する道徳の評価が大きなまとまり，長い期間のくくりのまとめとして保護者の理解も進む可能性が高くなる。

・授業時間に発話される記録や記述などを，児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し，評価に活用すること。

ワークシートや感想文を生徒の発話と結びつくように書式を工夫することも重要である。ワークシートの書式，内容を工夫することにより生徒が具体的に発言する内容（予想される）とワークシートでの記録を関連づける。

・作文やレポート，スピーチやプレゼンテーション，協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。

授業中，授業後に児童生徒一人ひとりについて記録をまとめることが重要である。忘れずに。教員として事務作業の効率化を図り有効な方法選択する。ICT，音声記録，映像記録なども有効な活用範囲である。

・１回１回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識してよい変容を見取ろうとすることは困難であるため，年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取ることを心掛けるようにすること。

ファイルの中の記録の書式に工夫をすること。一年分記載できるようにし，その時々に該当事項，該当生徒に記載する。特に年間を通しての評価計画をあらかじめ考えておくことが重要である。年間指導計画とともに記載できるように工夫すると良い。

・児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して，考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより，内面が変わってきていることを見取ること。

児童生徒の感想文は長期間にわたり教員が保管できない。読んで児童生徒に返却する必要があるので感想文の一部をメモするか，コピーをとることがいい。個人のファイルの中で考えの深まりを比較してわかるように整頓すること。他人の意見を聞くことについては授業内で生徒の様子を見取り，記録を残してそれを積み重ねること。

・教員同士で互いに授業を交換して見合うなど，チームとして取り組むことにより，児童生徒の理解が深まり，変容を確実につかむことができるようになる。教員の発問や非言語表現，言葉の間合い，声の強弱，視線の高低

等々にも児童生徒の変容や感情の変化などを見ることができる。

授業交換するにあたっては学級の生徒の状況を詳細に情報交換し，指導案の作成はお互いの担任同士で検討する必要がある。特に指導案の終末でのまとめやワークシートへの記載内容により児童生徒の変容を把握でき，積み重ねの資料になる。

・評価の質を高めるために，評価の視点や方法，評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内，学校内で共通認識をもっておくことが重要である。

学年内で指導項目，資料により同じような指導案ができるが，学級の児童生徒の状況は異なるので同じ指導案はありえない。指導案の異なる点など学年内に提示しそれぞれの教員がその学級の担任の立場から意見交換し共通認識を深めることが重要である。特に書式の検討そしてきめ細かく記録できるように備考欄の検討は必須である。

そのうえで道徳科については，「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について，特に顕著と認められる具体的な状況等について記述による評価を行うこと」となるが，前述の指導要録書式（案）では記載する枠が限られているので，顕著な状況の記載のみとなる。日常の・児童生徒への伝達，保護者への伝達が顕著な状況について保護者・本人の理解を助けることになる。教員はその時の授業だけでなく，長期の授業の計画や記録のための計画，評価のための計画を持っておくことが重要となる。そして児童生徒個人についての学習状況や道徳性に係る成長の様子は詳細に記録・ファイルし次の学年，上級学校へ引き継いでいく必要がある。

参考文献

文部科学省　学習指導要領の一部改正に伴う小学校，中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）28 文科初第 604 号